

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市歴史民俗資料館
2	指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年（2017）4月1日～令和4年（2022）3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》《利用者数》27,842人（前年度比78%） 平成29年度 35,643人 平成28年度 33,955人 平成27年度 37,566人
		《事業》 展示事業：年3回の企画展・特別展および年4回の季節展示。展示図録刊行。 調査研究事業：調査報告書、資料集刊行、資料寄贈の受け入れ・整理。 普及啓発事業：イベント、学校見学の受け入れ等
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 64,361千円 (65,879千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (2,980千円) 《収入》 ・ 使用料収入 1,201千円 (1,260千円) ・ その他収入 519千円 (387千円) ()は前年度決算額
		《実施状況》 *利用者アンケートを平成30年12月に実施 *特別展企画展毎にアンケートを実施
6	利用者の声	《実施状況》 *利用者アンケートを平成30年12月に実施 *特別展企画展毎にアンケートを実施

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員がそれを十分理解しているとともに、歴史民俗資料の積極的な収集・保管、調査・研究、展示事業や講座等の普及啓発事業等を通して本市の歴史文化の保護向上等の施設目的を十分達成している。	27/27
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館状況、指定管理料の執行状況及び個人情報保護も適正である。事故・災害等の発生時の対応体制は、研修や震災後の事例集の作成などにより職員間での共通理解が図られている。	24/24
III	施設・設備の維持管理	施設そのものが仙台市指定有形文化財であることを踏まえた適切な維持管理がなされており、安全性を確保した上で利用者が快適に利用できる状態が保持されている。また、仙台市環境行動計画に則り省エネ・廃棄物の減量・リサイクルに努めている。	24/24
IV	サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は適切であり、職員への教育・研修を随時行っている。また、ホームページやパンフレット等による利用情報の積極的な提供や利用者アンケートも実施している。苦情については随時適切に対応しており、アンケートで寄せられた意見についてもホームページ上で適宜公開のうえ回答している。	28/28
V	施設固有の基準	協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また榴岡公園を利用して行うイベントには多くの近隣住民やリピーターが訪れており、施設の活動が地域社会や市民に普及し、定着している。地域の団体や関連する活動を行うNPOなどと連携したイベントも実施しており、こうした機会を通じて貴重な資料の発掘につながる等の事業を行っている。	12/12

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人 仙台市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営においては施設所管課と協議を行いながら協定書に基づき適切に行った。展示室内のLED化の進展のほか、館内の温度調節に細心の注意を払い、効率的な展示環境を形成した。</p> <p>入館者数は27,842人で前年度を下回ったが、例年賑わう5月の行楽シーズンや秋のイベントの際の悪天候が大きく影響したものと考えられる。その一方で仙台市内外から年間約160校の学校が見学に来館しており、453回に及ぶ石臼をひく体験や行灯の明かりを見る体験学習も実施し、博学連携は年々深まっている。近隣市町村や近隣の小中学校からの自主研修などの利用も増加傾向にあり、学校教育との連携はより深まっている。</p> <p>資料の収集・整理・保管に関わる事業では資料の寄贈が66件、約1300点にのぼり、資料の収蔵点数は91,000点を超えた。調査研究事業では収蔵資料目録を資料集として刊行し、学芸員による調査活動や研究成果をまとめた調査報告書を刊行した。展示事業ではすべてオリジナルな企画展・特別展を3回開催し、収蔵資料の研究成果と継続して取り組んできた調査結果をわかりやすく紹介した。また、展示内容を詳述した図録を2冊刊行し、関連するイベント等を合計23回開催した。</p> <p>自主事業としては13回目を迎えた「れきみん秋祭り」を仙台市教育委員会と共催し、あいにくの雨天の中、2日間にわたり2,410人の来場者を数えた。仙台市内の伝統芸能である田植踊や鹿踊剣舞、お神楽に加え、宮城県内と東北地方のお神楽を紹介するイベントは広く東北の風土に根ざした文化を知ることができる格好の野外イベントとして内外に知られるようになった。</p> <p>今後も仙台の町の歴史と人々の暮らしを後世に伝える施設としての役割と使命を自覚し、仙台市の文化行政を担う拠点の一つとして、市民の皆さまの付託に応えられるよう職員一体となって取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>①資料受贈・整理の取組みは、寄贈に至る背景として当市の歴史・文化や市民生活の変遷について不断に調査研究を行い、価値づけられた資料を適切に収集・整理し、保管してきたものであり、こうした館活動に対する市民の信頼が醸成されている。市民生活の変化が著しい時代にあって、こうした業務を継続している点を評価する。</p> <p>②展示・展覧会については、市民の興味をひくテーマを設定し、わかりやすく構成したことで教養の向上に資するものであった。例えば企画展「コメどころ仙台」は江戸時代以来の米作の歴史と生活との結びつきを紹介し、都市化が進む現代において地域の特徴を再認識できるものとなった。この内容については、仙台市文化財保護審議会委員からも評価する意見が寄せられた。調査報告では「みやぎの近現代史を考える会」と共同で、資料性・稀少性の高い資料全文を注釈付きで翻刻した膨大な基礎作業の成果を掲載した。これら日常的な調査研究活動の成果を評価する。</p> <p>③サポーターによるサポート業務は、適切な施設運営を推進する上で大きな助けとなっている。小学生の社会科学習見学においても展示解説などでサポーターが対応し、好評を博している。サポーターが市民と施設をつなぐ意義ある活動であり、サポーター側にとっても、昔のあそびなどを子どもに伝える活動を目的化することによって生涯学習活動の支柱としており、こうした市民活動を下支えする館活動が良好に運営されている。</p> <p>④学校連携では、小学校学習指導要領（社会科第3学年）に「人々の生活の移り変わりを理解する」とあることを踏まえ、地域の歴史と人々の生活について効果的な学習を行うことができるよう、展示内容や解説を工夫している。現在では市内小学校120校のうち104校が利用しており、これまで学校教育との連携強化を図ってきた結果、生徒が郷土の歴史や文化に対する理解を深めることに貢献している。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課